



ジギタリス ダルメシアン・シリーズ

学名: *D. purpurea*

種子粒数の目安: 800 から 1,000 粒/グラム

開花特性と要因

- 初年開花の特性を有する
- 低温処理(バーナリゼーション)は不要
- 日長時間との関係では、条件的長日開花の特性を有する

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しいプラグ用培地を使用する。培地の pH は 5.5 から 6.5、また初期培地の養分は中庸(EC: 0.7 から 1.0mmhos/cm(1:2))とする

播種

288 穴トレイ	1 粒播き/1 穴
180 穴トレイ	1 粒播き/1 穴
84 穴トレイ	4 粒播き/1 穴

- 発芽には光が必要なので、覆土はしない
- 立枯れ予防のため播種後、殺菌剤を散布する

ステージ 1 - 発芽日数は概ね 5、6 日

地温: 18 から 20°C

光条件: より良い発芽のためには光が必要で、光をあてることで初期の徒長が軽減される

水分: ステージ 1 では、水分レベルを適度な湿潤(level 4)で維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 95 から 97%

ステージ 2

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを少し下げて、適度な湿潤(level 4)から標準(level 3)の範囲で維持し、根が培地中を十分広がるように促す。乾燥させすぎて苗を枯らせないように注意する

肥料: リン酸の低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm (N)以下、EC: 0.7mS/cm)で与える

ステージ 3

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 標準/中庸(level 3)とする。次のかん水の直前までに培地の表面が薄茶色に乾くような、やや乾燥した状態で管理する

肥料: ステージ 2 同様、硝酸態の肥料をレート 1(100ppm(N)以下、EC: 0.7 mS/cm)の濃度で与える。培地の pH を 5.5 から 6.2 の範囲で管理する

矮化剤: ジギタリスは、B ナインとボンザイによく反応する植物である。B ナインを用いる場合は、播種後 2、3 週で、2,000ppm を散布する。必要に応じて、1 週後に再度与える。温度の高い条件では、ボンザイ 5ppm(もしくはスマジック 3ppm)の散布が有効である。

ステージ 4

地温: 14 から 18°C

光条件: 53,800 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 3 同様

肥料: レート 1 からレート 2(175ppm(N) を最大として、EC は 0.5mmhos/cm(1:2))の間で調整しながら、硝酸態肥料を与える

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

15 cm	1 本植え - 288 穴トレイ
18 cm	1 本植え - 288 穴トレイ
30 cm	3 から 4 本植え - 288 穴ないし 84 穴トレイ

用土(培地)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。用土の pH は 5.8 から 6.2、初期の養分は中庸(EC: 1.0mmhos/cm)とする

生産中の EC 管理

初期(前半ステージ)	EC = 1.0 から 1.2
終期(後半ステージ)	EC = 1.3 から 1.5

温度

昼間温度: 16 から 20°C

夜間温度: 10 から 18°C

※ とくに施設外栽培の場合は、凍結させないように注意

照度(光条件)

補足的な電照等は不要。光条件が強いほど開花が促進される

日長条件との関係

ジギタリスは条件的長日植物であり、概ね 14 時間が長日条件としての限界となる

かん水

基本的に培地は常時乾かさないようにする。極端な過湿や乾燥は避ける

肥料

レート 1 からレート 2(175ppm(N)) を最大として、EC は 0.5-0.7mS/cm(1:2)の間で調整しながら肥料を与える。用土(培地)の pH は 5.8 から 6.2 を維持し、値が高くないように注意する。値が 7 を超えると、若葉が黄化し、丈の生育や開花に障害が現れるので注意する

矮化剤(PGR)

ジギタリスは、B ナイン 2,500ppm の反復投与によって効果が確認されている。必要であれば、移植後 2 週の時点で初回の処理を行う。温度の高い条件では、スパイク(花穂)が伸びてしまう前に、ボンザイ 5 から 10ppm(もしくはスマジック 5ppm)で処理を行う

ピンチ

ピンチは不要である

スペーシング

個体間の葉どうしは触れはじめたら適宜スペースをとる

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 から 6 週

播種から移植まで(180 穴トレイ): 6 から 7 週

播種から移植まで(84 穴トレイ): 6 から 7 週

移植から開花まで: 11 から 12 週

適切な日長条件と 16 から 20°C の温度を条件とする

播種から開花まで: 15 から 18 週

適切な日長条件と 16 から 20°C の温度を条件とする

注意点: ダルメシアン・シリーズでは、他の品種と比べて、パープルは 1 週早く、またピーチは 1 週遅く開花する

春生産の通常の作型:

2 月中旬あるいは下旬の播種で、6 月中旬から下旬に自然開花する

病例等

害虫: アブラムシ、ホワイトフライなど

病気: ボトリティス、バト病、斑点病など

定植場所や配置について

- ジギタリス・ダルメシアンは、初年開花の宿根品種。USDA 耐寒性指標はゾーン 5-9(最低温度マイナス 29°C)
- 花壇定植後の草丈はおおよそ 80 から 110cm。強い風に対してはステムの折損等を防止することが望ましい
- 降霜のおそれのない場合は、適宜日陰がとれるような場所に定植をする
- 定植時は、株間を 30 から 40cm とって、水はけのよい土へ植える
- 塩類のレベルが高い場所への定植は、丈や性質に悪い影響が出るので避けましょう

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

